

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1472601317
法人名	特定非営利活動法人シオン相模原
事業所名	グループホームシオン相模原
訪問調査日	2017年9月15日
評価確定日	2017年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472601317	事業の開始年月日	平成12年12月1日	
		指定年月日	平成26年12月1日	
法人名	特定非営利活動法人 シオン相模原			
事業所名	グループホーム シオン相模原			
所在地	(252-0137) 神奈川県相模原市緑区二本松4-8-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成29年8月29日	評価結果 市町村受理日	平成29年12月8日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の教えに基づき、入居者中心とした支援・介護をしていく。 ・入居者のニーズに沿った行事を組み、社会性を失うことなく楽しく生活出来るよう支援していく。 ・ご近所体操や地域の行事に参加し、地域との関わりを大切にしていく。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年9月15日	評価機関 評価決定日	平成29年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- この事業所は、NPO法人シオン相模原の経営です。この法人の理事長は牧師であり、昭和49年に保育園を最初に設立。続いて身体障害者施設を開設、平成12年介護保険のスタートの年にこの法人を設立しています。この事業所は、「JR橋本駅」からバスで10分徒歩5分の住宅地の中にあります。建物は、2階建の1ユニットのホームですが、各居室が、13畳もある広い部屋で、トイレも各室に設置されています。
- 理念「私達は入居者中心に考えます」と指針「キリスト教の愛・喜び・平安・寛容を基本に支援/住み慣れた生活/地域との交流」をリビングに掲示しています。そして、理念を、毎朝引き継ぎ時に職員全員で唱和し共有しています。さらに、毎月2回、副理事長が理念、指針の心構えを説話を通して職員に伝えていきます。
- ケアについて、獲れたて新鮮野菜の一品を添えてバランスの良い食事、多彩な外出レク、一緒に買い物に行く、和歌を作る、写真を撮って飾る、キリスト教の教えに基づくケアと良いところを伸ばすようにケアをしています。その結果、利用者は精神的にも落ち着いた状態で日々生活が送れています。お年寄りが病気をしない、血液検査値が良く元気になっているので訪問看護師、往診医師が思わず「ここに来るとほっとする」と話すなど、利用者が心身共に落ち着いて過ごせる生活支援が行なわれています。
- 地域とは良好な関係を構築できています。近所の方々中心に作られた「シオン相模原協会」の方が避難訓練やクリスマス会など、事業所の行事の協力していただいている他、地域の夏祭りや七夕祭りに参加し交流を深めています。近くの公園で行われている月2回の「ご近所体操」は、近所の方々との交流の場になっています。また、中・高生の実習の受け入れも行い、保育園との交流では運動会にも参加しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームシオン相模原
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	シオン相模原の理念を、毎朝引き継ぎ時に職員全員で唱和し共有すると共に、地域の行事に参加したり、ホームの行事にお招きしたりし、理念の実践につなげている	理念「私達は入居者中心に考えます」と指針「キリスト教の愛・喜び・平安・寛容を基本に支援／住み慣れた生活／地域との交流」をリビングに掲示しています。そして、理念を、毎朝引き継ぎ時に職員全員で唱和し共有しています。さらに、毎月2回、副理事長が理念、指針の心構えを説話を通して職員に伝えています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月第一、第三火曜日に、近くの公園にて、地域の方や市職員と一緒に「ご近所体操」をして交流している。	近所の方々中心に作られた「シオン相模原協力会」の方が避難訓練やクリスマス会など、事業所の行事に協力していただいています。地域の夏祭りや七夕祭りにも参加し交流を深めています。近所の公園で行われる月2回の「ご近所体操」は、近所の方々との交流の場になっています。また、中・高生の実習の受け入れも行い、保育園との交流では運動会にも参加しています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練などで、近所の方及び協力会、利用者と一緒に行動して、認知の方の動きを理解して頂く。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催して話し合いをし、その中からホームに役立つことはサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、協力会会長・民生委員・高齢者支援センター・家族代表・利用者等が出席し、事業所のリビングで2カ月毎に実施しています。前回7月の会議では、事業所が低地にあることから大雨による浸水対策について話し合いをしています。開催時間を13時30分からリビングで実施することで、参加者に利用者の様子も見て頂けるようにしています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に、相原高齢者支援センターと連携し、緊密に連絡している。	6月に集団指導講習会に出席しています。そこで法改正や実施業務に対する行政の説明を聞いています。この事業所は、今年情報公表、実地指導を受けることになっています。市及び区の高齢支援センター、高齢政策課、生活相談課とは密に連絡を取り合っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	K・M氏 一人で、数回外に出てしまい、警察及び地域の方に迷惑がかかった事があり、玄関の施錠をしている。 尚、玄関からの不審者の侵入を防ぐうえでも施錠している。	「身体拘束」については、職員が外部研修に参加し、会議で情報を共有し周知しています。事業所前は車の往来も多く、徘徊する方、外部からの侵入防止のために玄関を施錠しています。日頃から外出を多くすることにより、施錠が弊害を感じないようにしています。そして、徘徊を含め、利用者ごとのリスクは職員間で共有して注意しています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各自研修で学び、ホームで職員と共有して、防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族のおられない入居者については、後見人を付けている。 各入居者、後見人とコミュニケーションを密に取り合っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約は、入居者、ご家族、後見人とよく話し合い適切に対応している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を聞き対応している。 家族の要望・意見はケアプランの送付特別紙に記入していただいたり、電話での連絡もいつでも受けている。	年に3回家族会を開くことにしています。ケアプラン押印手紙には、家族の意見要望を記入する用紙を入れて郵送し、家族の意見はきちんと記入されて戻ってきています。3ヶ月に1回、利用者の近況をお知らせする「シオン相模原だより」には、様々な行事での利用者の写真を添付し、理事長のコメントを掲載することで、家族等からの意見を出しやすくしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回の職員会議を開き、職員の意見を聞く。 職員の引継ぎ時、理念を読み上げ、実践につなげている。	全員が参加できるよう月2回職員会議を開催しています。時間は13:30～15:00で場所はリビングで利用者の見守りをしながら実施しています。また、職員の特性に合わせ行事担当者を決めるなど、職員の意欲向上に繋げています。職員の退職の際には利用者と職員全員で送る会を行い、慣れ親しんだ人とお別れをしています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室を設け、自由にくつろげる場を提供し、テレビやエアコンの設置もなされている。職員それぞれの持ち味を生かし、十分に力を発揮できるように配慮し、順次、研修へも出している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの研修に個人個人出来る限り集積させている。 運営推進会議への出席。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ホームの新聞を作製し、他のホームに送りネットワークに活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に、本人、ご家族とコミュニケーションをとり、ホームの生活を説明させていただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの理念や地域での役割、関連など、交流をしている事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	積極的に本人またはご家族から意見を聞き、必要に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望を聞き、家族や地域と協力しながら支援する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一人ひとり希望を把握し、本人、家族、地域の人々と協力し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の人たちと交流しながら社会関係を継続する。	11月3日の地域のお祭りでは、神輿の行列が近くの通りまで来てくれるので、見学の際には、協力会の方と職員で利用者をお連れしています。昔住んでいた馴染みの場所や行きつけの美容院にも付き添っています。年賀状等の返事を希望する方には職員が代筆して、関係が途切れないよう支援しています。友人と電話で話している方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりが孤立しないよう、入居者同士も支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者との関係を断ち切ることがないよう、本人や家族からの相談があれば必要に応じて支援できるようにしたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握し、その思いに寄り添い支えられるよう努めている。	入居されるときは、居宅や病院に出向いて入居事前面接記録にその方の思いや暮らし方の希望を含めて記入しています。入居後の本人の意向や生活情報は介護記録に時系列で記録しています。医療情報は、医師の受診記録、看護師の看護記録にあります。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のこれまでの暮らし方、生活環境を把握し、過去の家具や日用品、なじみの品などを持参していただき、生活に役立つことができるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの心身状態、その日の過ごし方、現状を把握するよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回、職員会議時、ケアプランに添い本人がより良く暮らすために、本人、家族の意見を聞き、職員同士で話をしたり、アイデアも反映させながら介護計画・モニタリングを行っている。	入居時は、入居時事前面接記録により初回ケアプランを作り、入居生活のケアが行われます。1ヶ月程度経過した時点で介護記録、医療情報をもとに正規のケアプランを作成しています。ケアプランの見直しは6ヶ月又は変化のあった際に行っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月2回の職員会議を通して、入居者の日々の様子やケアの実践結果、気づきの大切さを認識し、実践できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題発生時は、ご家族や後見人と話し合い、個々のニーズに合わせてられるよう工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回のご近所体操や防災訓練を通して、地域の方々の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人の希望や家族の協力のもと、適切な医療を受けられるよう支援する。	入居時には主治医、または事業所のかかりつけ医に切り替えるかを家族と相談しています。事業所のかかりつけ医の往診は月2回あり、また、利用者の体調管理の為に週1回看護師の訪問もあります。歯科医は、希望者に応じて往診があります。精神科・眼科・脳神経外科等、専門医への通院は、管理者が付き添って受診しています。マッサージを受けている方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時、利用者の状況を説明し、助言を受けて介護につないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な診察時に医師、看護師に利用者の状況を報告、指導をしていただき、入院時にも適切な指導を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム関係の医師・看護師の指導を受けながら、グループホームとして出来る範囲での介護をしている。	終末期には、医師と家族で話し合いをし、看取りの介護計画を管理者が作成します。平成27年に1名看取り介護を終了しています。同じ時期から他の1名が看取り体制に入って、現在も看取り介護の実施中です。管理者は、看取りの経験が豊富であり、管理者の指導の下に各職員は安心して対応しています。今年、職員が喀痰吸引の資格を取得してケアに当たっています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、消防署の訓練や心肺蘇生法の訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署から指導者に来ていただき、地域の皆さんと共に訓練している。	訓練は年2回、消防署立ち合いの下、事業所の駐車場で水消火器も使用した実践訓練を実施しています。うち1回は、事業所で夜間想定・通報・避難の方法の訓練も行っています。また、災害時はシオン相模原協会を含め地域の方の協力も得られる体制を整えています。備蓄は倉庫に水・米・食料品を2か月分準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり喜び方も違うので、相手に合わせて対応している。	一人ひとり喜び方も違うので、相手に合わせた対応を心がけています。利用者で物凄く妬み深い方がおり、他の利用者に声掛けしていると「声をかけてくれない」写真を撮ると「写っていない」など声を荒げることがあるので、公平誠実に対応して、他の利用者との共同生活支障がない範囲で人格の尊重したケアに専心しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族のような雰囲気でも何でも言える状況である。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少しでも一人ひとりの生活の質を向上させるために、リハビリ、食事時に注意している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は3日に1度の入浴時に洗濯している。適時新しく購入し、身だしなみは良い。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一日3度の食事を楽しめるよう、職員は工夫している。食事の準備はあまりできなくなったが、後片付けは皆で和気あいあい楽しんでる。	食材は、管理栄養士のいる食材会社から定期購入しています。メニューは食材会社が作り、味付けは職員が行っています。時には行事食や外食等も取り入れ、食事が楽しめるようにしています。管理者の自家菜園や地域の方が収穫した野菜などを調理し、食事に一品追加することもあります。出来る方には、食器洗い等を手伝ってもらっています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経口摂取が難しい入居者も根気よく介助している。 季節や状態によって水分量の調節をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に合わせ声掛けをし口腔ケアをしてもらう。 一人で口腔ケアが難しい入居者は、職員が毎食後施行している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄パターンに合わせて自力に向け生活リハビリも施行している。	トイレでの排泄を大切に考え排泄支援をしています。自己申告を含め排泄の状況を記録した排泄チェック表を基に、居室にあるトイレで排泄を促すことで、オムツの使用を控えると共に、羞恥心にも配慮した支援を行っています。便秘対策では、3食ともヨーグルトを出したり、重症化している利用者には便秘薬を使用することもあります。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや青汁を摂取して頂く。 腹部マッサージなども施行している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思を大切に安全に入浴してもらう。 入浴時、利用者が好きな歌などを歌う。	週に2~3回、午後からを入浴時間として、利用者の意向に沿った支援をしています。入浴時、利用者が好きな歌などを歌うなど本人の意思を大切にしています。入浴拒否の方には、声掛けの工夫をしています。同性介助を希望される場合は同性で対応しています。季節のゆず湯もしています。体調が優れない時は、清拭やシャワー浴で対応することもあります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣を理解し、室温、照明等に気を配り、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について職員同士で毎回確認する。入居者の薬については、目的や副作用、用法、用量を把握している。薬は、飲みこむまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片付けや準備を一緒に行う。カラオケを活用したり、レクリエーションなどを施行し、楽しめるよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域ボランティアの方なども外出参加していただいている。職員の無理のない外出の付き添い人数を確保し外出を行っている。	職員の無理のない外出の付き添い人数を確保して外出支援を行っています。利用者を中心に考えた外出を多く実施しています。春の花見、ぶどう狩り・バーベキューなどの行事には、シオン相模原協力会の方にも参加いただいています。日課として近くの公園へ散歩に行きます。散歩に行く道中も楽しめるように、しりとりなどをしながら歩いています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のニーズに合わせて、希望に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーを確保しながら、電話や手紙のやり取りを出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は写真などを貼ったり、書初めを掲示したりと工夫し、空気清浄器、エアコン、十分な明るさが確保できるよう配慮している。	インテリアは、利用者の書初め和歌などの作品や行事写真を展示して、利用者が見て喜び生き甲斐を感じられるように工夫しています。開放的なリビングは空気清浄機が設置され、静かでさわやかな空間です。玄関ではプランターでナス・キュウリ・ネギ等を育てており、食卓が上がります。中庭には、ブドウ、カボチャなどが力強くツルを伸ばして繁茂しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分は整理整頓につとめ、気の合う入居者のテーブルや介助の必要な方のテーブル、あるいはソファも2つ準備し、楽しく過ごせるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の環境作りに、過去に使っていたものを置くなどして、居心地良く生活できるよう工夫している。	居室は13畳と広く、トイレ・洗面台・クローゼットなどが設置されています。利用者が安らぎを得るような使い慣れた家具・備品を持ち込んでいます。テレビ・机などと共に家族の写真を飾るなど、利用者が居心地よく過ごせる空間になっています。ドアに顔写真付きの名札があり、災害時の安否確認にも活用できるようにしています。居室の掃除は3日に1度実施しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が片付けや掃除を一緒に行い、自分でできることは、なるべく本人にさせていただくように気配りしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームシオン相模原

作成日

2017年9月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	6	家族会が1回だけ開催。	年3回家族会を開けるようにしたい。	ご家族の方々との連絡調整を充分にしてい	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。